

ジャパンクラシック

パワーリフティング選手権大会報告

2016年2月27-28日、市原市、千葉県

写真：IPF 国際審判員、Team Ponze

物江 毅

第一コート報告：パワーハウスコーチ

久保 匡平



まず初めに私自身セコンドについていたので全選手の試技を見られなかったのですが、注目していた選手のためのレポートになってしまいますがご了承ください。

第一コート、第一セッション Aグループ Jr,SJr 女子全階級

このグループの注目は世界ジュニアクラシック選手権大会でトップを走っている京都学園大学の Jr 女子 63kg 級の寺原選手と同大学目下急成長中の女子

72kg 級の窓場選手に注目していた。

寺原選手の SQ はノーギア、フルギア共に世界 Jr で種目別で金メダルを取る記録を持っている。そんな寺原選手の SQ 第一試技は 150kg を軽々成功し第二試技は、世界 Jr 記録を上回る 162.5kg を申請した。この重量も難なくクリアしたと思ったら赤判定二個。陪審員に抗議に行くと 3 人一致で白の判定であったが、抗議に行くのが遅れ試合が流れてしまったため再試技することができなかった。第三試技は同重量をしっかりと決めて未公認の SQJr 世界記録に成功した。(一般日本記録樹立) BP は第一試技の 70kg のみ、DL は 160kg を引ききり TO392.5kg で優勝し世界クラシックパワーの権利を獲得した。

世界大会では是非 SQ の世界記録樹立と世界チャンピオン奪回をしてもらいたい。

2 位には同大学の堤選手が SQ127.5kg、BP65kg、DL145kg、T L 337.5kg だった。

72kg 級の窓場選手も好記録だった。寺原選手の後輩で記録に近い為、お互い競い合っ練習しているそう。そんな窓場選手、SQ は 155kg、BP は 75kg、DL は第二試技で一般日本記録となる 170kg に成功し TO L も一

ベストリフターを狙っています！ご主人と二人三脚、可児選手



一般日本記録タイとなる 400kg に乗せてきた。まだ大学二回生なのでこれからが楽しみの選手である。

第二セッション 男子 SJ r 全階級

この試合の直前に埼玉の名門校浦和学院の学生達がパワーハウスに練習に来てくれていたので注目していた。

その浦和学院の学生たちは全員優勝する素晴らしい結果を残していた。今後も長く競技を続けてほしいと切に願う。

また 105kg 級にはパワー歴 1 年も満たない平川選手（パワーハウス）が SQ190kg、BP115kg、DL200kg、TO505kg をマークし BP 以外日本記録を樹立をして優勝した。

一般女子 47kg 級～ 72kg 級

47kg 級は世界クラシック常連の可児選手が登場。試合開始前から優勝は勿論のことベストリフターを狙っていると御主人から聞いていたが、SQ では日本記録となる 113kg をマーク、BP は 75kg、得意の DL では 150kg を引き TO338kg とした。もちろん優勝しベ

ストリフターもゲットすることが出来た。2 位はジュニアとダブルエントリーの入船選手で TO245kg だった。

52kg 級も世界クラシック常連の古屋選手が安定した試合展開をし SQ123kg、BP92.5kg、DL142.5、TO358kg で優勝した。2 位は TO277.5kg でスーパーパワーアサマトレーニングクラブの磯田選手、続く 3 位はパワーハウス明石の田中選手で 250kg だった。

57kg 級には全日本クラシックチャンピオンの居鶴選手（MAT 所属）と、フルギア全日本チャンピオンの加藤選手（TXP 所属）の対決が注目された。両選手得意種目が一緒に最終種目の DL までもつれるであろうと予想していたがやはり混戦となった。

SQ は居鶴選手が 117.5kg、対する加藤選手が 110kg と 7.5kg 差、続く BP では居鶴選手が 72.5kg に対して加藤選手が 82.5kg を成功させてその差を 2.5kg ひっくり返して DL をむかえた。DL の第一試技は加藤選手が 145kg、居鶴選手が 150kg を成功させ居鶴選手が逆転に成功。続く第二試技は加藤選手が 10kg アップの 155kg を、居鶴選手は体重差で被せて 157.5kg で



昨年デビュー、日本記録の止まらない、梅村選手

リードを守ったまま第三試技に突入した。加藤選手は練習でも引いたことがない一般日本記録となる 162.5kg を申請しこれ見事引ききり 355kg でフィニッシュ。対する居鶴選手は加藤選手よりロットナンバーが若い分後攻めするに加藤選手よりも重たい重量を選択しなければならず、163kg と加藤選手が打ち立てた日本記録を上回る 163kg を申請しチャレンジしたが引ききることができず、今回の対決は加藤選手に軍配が上がり、フルギアとノーギアの統一チャンピオンとなった。

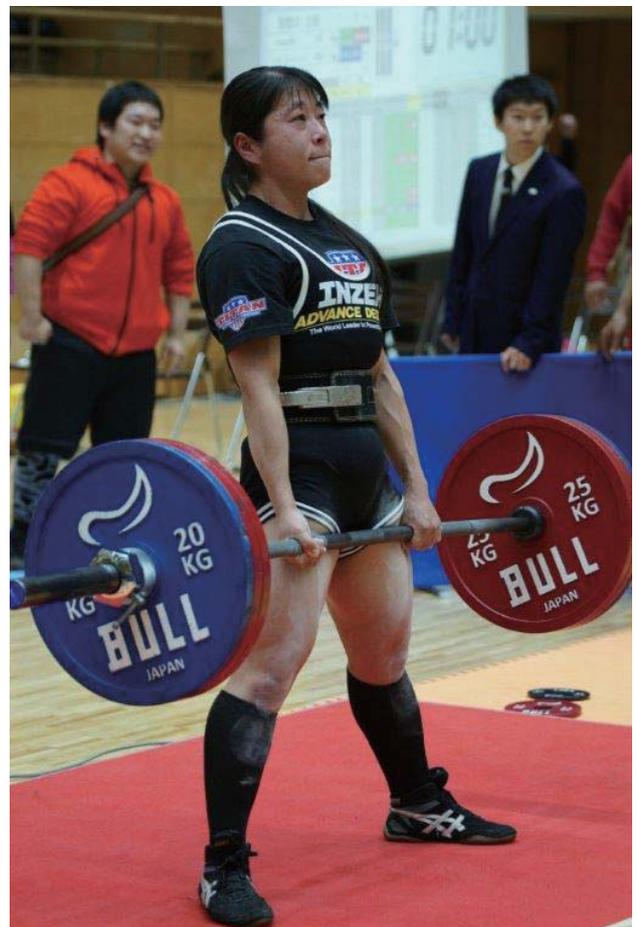
63kg 級は絶対嬢王の北村選手が自らセコンドをされていた、若手の前野選手が SQ110kg、BP67.5kg、DL147.5kg、TO325kg で嬉しい初優勝を遂げた。

女子のもう一つの注目階級である 72kg 級はノーギアでフルギア全日本 2 位に入った実績をもつ竹内選手（個人）と、フルギアチャンピオンの野間口選手（パワーハウス）の間で激しい戦いが繰り広げられた。

SQ の第一申請を見た時、竹内選手がなんと日本記録を上回る 160kg を申請しており野間口選手は今回勝負するのは厳しいかと思ってしまう。がパワーリフティングは最後まで何が起こるかわからない。蓋を開けてみると、竹内選手は SQ 第一試技のみで 160kg 止まり、対する野間口選手は 135kg、147.5kg、155kg と三本成功させ差を 5kg でとどめた。

竹内選手は BP も強いが第一試技の 80kg を失敗してしまい 85kg でとどまった。対する野間口選手は BP もしっかり三本とり 72.5kg とし、両者の差は 15kg で DL をむかえた。

以前は DL が苦手だった竹内選手だが第一試技の 140kg、第二の 150kg を決めて第三試技は確実に逃げ切れるように 155kg を選択。一方、野間口選手も第一試技 140kg をきっちり取り、第二試技は竹内選手に 155kg を成功し 10kg 差として第三試技は竹内選手に被せるべく 170kg を申請し最後の試技に突入した。その竹内選手第二試技の挙がりなら確実に決めてくると思っていた 155kg をまさかの失敗。野間口選手はすぐさま 165kg に重量変更。この 165kg をきっちり決めきり TO395kg とし逆転優勝を果たした。



デッド対決の多かった今大会、72kg 級大接戦、竹内選手と野間口選手



第2コート報告： IPF 国際審判員 Team Ponze

物江 毅

第20回目の今大会、クラシック国際大会の門戸が開かれ、首都圏開催という事もあり、PLで225名という大量エントリー、そのため初日は3面での開催となった。関東ブロック、特に首都圏では大会会場の確保が大変困難で、ここゼットエー武道場を準備も含めて三日間抑えられた加藤事務局長のご苦勞は想像に難くない。2010年東京で開催した全日本PL大会も、駒沢屋内体育館をやっとの思いで7月下旬に三日間抑え、金曜日午後から女子の競技を開始したことを思い出した。

大会準備から残務整理を含めた加藤ご夫妻を初めとする千葉県協会役員各位のご健闘に深く感謝したい。

私は第2コートのGood Lift操作と陪審員を担当しTPAの柴原JPA1級審判員と交代で入ったが、試技表に第一試技重量がほとんど記載されておらず、入力に手間取り、試合開始が20分程度遅れてしまった。検量を担当した審判員の怠慢と言える。各都道府県協会ですぐれにやり方はあるであろうが、全日本クラスの大会では、検量担当の審判員は、三種目の第一試技重量を選手に確認し、試技表に記載された検量体重とそれらを選手に提示し、その場で選手の確認サインをもらうという国際大会のスタンダード手順を是非とも実行してほしいと熱望する。(二日目の試合開始時には地元千葉協会の役員の方が第一試技、ラック高を入力してくださり、大きな混乱は起きなかった)



2月27日

第1セッション

Cグループ JR 男子 53・59・93kg級

Dグループ JR 男子 83・105kg級

53kg級は丹優樹選手一人のエントリーであったが、DLで190.5kgのJR日本新に成功し、SQ130-BP95-DL190.5 TL415.5kgという結果であった。

今のJRは本当にレベルが高く、59kgで優勝した佐竹優典選手は一般とのダブルエントリーで、優勝の蛭原選手にTL2kg差の2位535.5kgという素晴らしい記録であった。春日部共栄高校時代からの大器が青山学院大に進学し、カレンダーイヤー20歳での快挙、来年度は全日本PL大会・ジャパクラシックPL大会の一般・JR部門で四冠が期待できる。さらに、世界JRPL大会で、今年度不本意な5位という結果のリベンジも果たしてくれるであろうという楽しい期待を抱かせてくれた。2位に入った村田元輝選手もBPに特化して強いという印象を覆し、DLでも205kgを引ききっている。TLも490.5kgで500kgの大台突破目前である。



日本の若手選手、デッドでも、ぐんぐん記録を伸ばしている

93kg級では、DLの第三試技日本記録290kgを見事に引き切った古川潤選手(京都学園大)がTL650kgという好記録で優勝。古川選手のTLは一般の部でも2位に入る好記録であった。それにしても毎回の全日本クラスの大会で思う事であるが、京都学園大学の選手はDLが特化して強い。後述するが富山県の選手もDLが強いという印象だ。皆で研鑽してSQやBPでは外国勢に遜色ないが、DLで順位を下げる日本選手の国際試合パターンを、近い将来是非とも払拭していただきたい!

第2セッション

Iグループ 一般女子 84kg級・一般男子 59kg級・教職員 66kg級

Jグループ 一般男子 59kg、66kg級



女子84kg級では愛知ちからこぶ所属梅村優子選手がSQ・DL及びTLで日本記録を連発、SQ155.5-BP65-DL153 TL378.5kgという記録であった。ちからこぶオーナーの福田さんの話では、まだパワーを初めて一年にも満たないとの事で、この先どこまで記録を伸ばすか本当に楽しみな選手が出現したという印象だ。拡張工事が完了したちからこぶで、これからも思う存分トレーニングに励んでいただきたい。

このクラス2位は青森POWER BOXの竹谷美和子選手でTL352.5kg、こちらも従来位の日本記録を上回る健闘である。3位には成功全試技でM3日本記録を更新したパワーハウスの作馬真由美選手がTL257.5kgで入った。

男子59kg級では、上述した茨城の消防士・蛭原孝晴選手がSQ185-BP142.5-DL210 TL537.5kgで優勝、佐竹選手の記録を見ながら試技が出来るアドバンテージを生かした試合運びであった。3位はDL第二試技、前のセッションで樹立されたばかりの佐竹選手の日本記録233.5kgを0.5kg更新した久保元人選手でTL516kg、4位は地元のベテラン水野貴章選手515kg、5位は上述の村田元輝選手、6位が与那覇康志選手465kgという結果となった。これだけの人数が出ていることから、グループ分けが大変であることは重々承知の上であるが、もし、佐竹選手が一般の選手と同じセッションで試技をしていたら、違った結果が出ていたのではないかという印象である。



男子66kg級は毎回ハイレベルな試合となるが、今回も常勝の井上雄介選手に選手宣誓を行った地元の渋谷優輝選手が挑む形となった。

SQとDLでは井上さんと渋谷さんはほぼ互角の力量であるが、BPで20kg程度の差があり、SQで9kg優位に立った渋谷さんに対して、井上さんはBP170kgに成功し、Sub TLで21kgの差を渋谷さんにつけ、DL第一試技でともに同重量240kgに成

世界トップクラスの66kg級井上選手に迫る渋谷選手。スクワットでは、231.5kgの日本新記録を樹立

功した時点度ほぼ勝負は決し、最終的に井上さん TL645kgで優勝 (大会ベストリフター)、渋谷さん TL621.5kg(ベストリフター 2位) という結果となった。3位は JR2 位の古清水駿選手 TL585kg (JR 優勝は木内陽介選手で TL592.5kg) であった。

2月28日

P グループ 93kg 級

Q グループ 93kg・+ 120kg 級

R グループ 105kg 級



今大会注目の 93kg 級、ウエイトリフティング 85kg 級の日本チャンプ・山本俊樹選手が 1/24 ウエストトーキョー PL 大会で SQ300kg に成功し急遽参戦、俄然優勝争いが面白くなった。

私は 1/24 の山本さんの試技を目の前で見れていたが、見事にビルドアップされた素晴らしい身体で、頑張っ て成功した 300kg SQ には戦慄を覚えた。BP は 120kg 止まりで殆ど練習していないのではないかと いう印象、DL についてはウエイトリフティング的なアプローチで 260kg を余裕で引ききり、まだまだ余力が感じられた。



山本さんの対抗馬と目されるのは、久保匡平選手と風張徹選手、昨年の優勝者堀口選手は残念ながらエントリーしなかった。

試合前展開を予想したが、SQ は山本・久保がリードし、BP で風張・久保が山本選手に差をつけ、Sub TL では二人が山本選手をリード、風張選手は DL も強いので、逃げ切れるかというものであった。

P グループが終了し Q グループが開始された。山本選手は SQ 第一試技から日本新となる 285kg を深々

注目の 93kg 対決、山本選手と久保選手

としゃがみ、難なく立ち上がり、もちろん判定は白 3。ただ、第二、第三試技で挑んだ 295kg は立てず、対抗馬の久保選手は 270-280 と成功し、第三試技では 285.5kg に挑み立上ったが白 1：赤 2 で失敗判定。続いて地元で DL が強い西川選手 265kg、内藤選手・風張選手 250kg という順位であった。

BP に入るとひと月前 130kg に失敗していた山本選手が 130-140-142.5 と三試技とも成功、久保選手も 155-165-170 と続き、風張選手も 180-187.5-195 と同様に三試技とも成功、Sub TL で久保さん 450kg、風張さん 445kg、山本さん 427.5kg という順位となった。

DL では、得意種目のはずの風張さんが 220kg と控えめなスタート、第二試技も 245kg と平凡な記録で第三試技を

残り 690kgの TL、一方の久保さんは苦手の DL を 235 – 247.5 – 257.5 と三試技とも成功 TL707.5kgで試技を終え暫定トップに立つ。山本さんは 240 – 260 を軽々と引きまだ余裕がある。風張さんは第三試技 255kgを引ききれず TL690kgで終了、山本さんは DL 第三試技 288.5kgの日本新記録を申請していたが、282.5kgに重量変更、これを難なく引き切り TL710kgとし、久保さんを再逆転、ジャパクラシック PL 大会優勝を飾った。

私はこのセッションを陪審員という特等席で見る事が出来た。試合後久保さんに話を聞いたところ「SQ で 300 kgやれる目処がつかしました 今日はやられましたが次回山本選手と戦う機会があれば、必ずリベンジします」と力強く宣言してくれた。また、市原から東京への帰り道、風張さんが私の車に同乗した際に話を伺ったところ「久保君とは JR 時代からのライバルでノーギアでも負けてしまったので反省しています 今回は故障上がりで満足な調整ができませんでした 次回頑張ります」というコメントを残してくれた。

それにしても山本選手には、SQ・DL で 300kg超え、BP もすぐに 150kgオーバーの可能性が感じられた。是非とも TL800kg超えを目指していただきたい。800kg近い TL であれば、世界クラシック大会でも充分表彰台に立てる可能性がある。PL の国際大会出場も視野に入れ、是非ともジャパクラシック PL 大会に毎年参戦していただきたい。上記 3 名に堀口選手を加えた今後の 93kg級、益々目が離せない階級になりそうである。

105kg級では大本命武田裕介選手の一人旅であったが、記録的には 213kgの日本新記録を樹立した BP を除き低調であった。DL では、第二、三試技の 282.5kgで試技途中で左のグリップが持たず、バーをおとすという残念な失敗であった。柔らかいプルのシャフトは、ファーストプルは引きやすいが途中で反動が来るという武田選手の感想であった。私としては TXP のコーチとしてジムの選手のセコンドを一手に引き受け、ご自身の試技の際に疲労困憊の状態ではないのかという推測である。先日 TXP で武田選手にその旨話したところ、「世界大会ですとそういったセコンドの負担がないので、記録が良くなると思います 自分の目標は、世界大会で結果を出す事です」と語ってくれた。

このクラス、2 位は平井勇輝選手で TL680kg、3 位となった佐野雅史選手は DL 第二試技で 302.5kgに軽く成功、第三試技 305kgも惜しい試技であった。DL の弱い日本選手が多い中ノーギアで 300kgオーバーの重量を引き切る試技、とても迫力があつた。

+ 120kgでは、八試技成功ととても安定していた海老田旭選手 (TXP) が TL662.5kgで優勝、2 位秋山継徳選手 TL630kg、人気者のジミーこと辻見直樹選手が M2 の日本新連発し TL625kgで 3 位、2.5kg差 TL622.5kgの 4 位には、



TXP武田コーチ、迫力のスクワット

私と TXP でよく練習する機会が多い大坊健選手が八試技成功で入った。5 位は高橋昌弘選手で TL612.5kgであった。

担当範囲を逸脱するが、陪審員及び Good lift 操作の僅かな空き時間に、第一コートの女子選手の試技を拝見したので、少し触れさせていただく。

女子のベストリフターは可児理恵選手、九試技全部成功 SQ113-BP75-DL150 TL338kg F.P460.19、常勝の古屋選手に 10 点近い差をつけ初栄冠に輝いた。今回もご主人がセコンドで、とても微笑ましいご夫妻だ。娘さんもウエイトリフティングをされており、可児さんは「三人で一緒に試合に出るのが夢です」と語っておられた。

ベストリフター 2 位の古屋典子選手は、「故障気味で無理をしません」と語っておられたが八試技成功 SQ123-BP92.5-DL142.5 TL358kg という結果であった。

ベストリフター 3 位には、大健闘 JR の寺原万留々選手 SQ162.5-BP70-DL160 TL392.5kg で TL の 400kg 超えも目前である。寺原さんご自分の試技終了後、チームメイトのセコンドを一生懸命努めておられた。

一般女子 72kg 級では、東京の野間口志保選手と愛知の竹内あい選手が大接戦を展開、ともに TL395kg の好記録で体重差決着、優勝野間口さん、2 位竹内さんという結果であった。この試合、野間口さんが全試技成功に対して、竹内さんは五試技のみ成功、さらに野間口さんには所属ジム・パワーハウスコーチ久保匡平さんがセコンドでついていたが、竹内さんはお一人で試技しておられ、(このクラス 3 位の鈴木恭子選手のセコンドをしていた北村真由美さんがアドバイスしておられたが) その点で不利であったと思われる。次回は上述の寺原さんを含めた 3 人とも TL400 kg を超えていただきたい。

JPA では、昨年 11 月末の全日本 BP 美濃加茂大会から、全日本クラスの試技をユーストリームで実況中継しており、今回も山口真人常務理事兼広報部長をはじめとする広報部員スタッフが苦勞して機材を持ち込み、三面全部の試技を Web で全国に発信した。結構多くの方々が視聴して下さいました様である。

試技数 2000 を超えた今大会を、超人的な動きで見事に捌かれた加藤事務局長ご夫妻を始めとする千葉協会役員の皆さん、素晴らしいジャパンクラシック PL 大会を開催していただき有難うございました！！

ベストリフター 男子 66kg 級、井上雄介 女子 47kg 級、可児理恵

団体戦結果
Sub JR&JR 都道府県対抗戦 優勝 埼玉県 2 位 関西学連 3 位 関東学連
一般女子都道府県対抗戦 優勝 東京都 2 位 神奈川県
一般男子都道府県対抗戦 優勝 東京都 2 位 千葉県 3 位 埼玉県



女子クラブ対抗戦

優勝 パワーハウス
2 位 TXP
3 位 京都学園大学

男子クラブ対抗戦 (写真左)

優勝 TXP
2 位 京都学園大学
3 位 アサマトレーニングクラブ
4 位 青山学院大学
5 位 岡山大学
6 位 Club ポイズン